

神奈川県金融経済概況（2018年3月）

I. 概況

神奈川県の景気は、緩やかに拡大しつつある。

すなわち、企業部門をみると、生産と輸出は増加している。設備投資は高い水準で推移している。家計部門をみると、雇用・家計所得環境は労働需給が引き締まりを続けているほか、所得環境も着実に改善している。個人消費は持ち直している。この間、住宅投資は弱めの動きとなっている。公共投資は基調としては増加している。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加している。

II. 実体経済

(1) 生産： 増加している。

- ・ 輸送機械は、新興国向けトラックが低調ながら、国内向けはトラックが堅調なほか、乗用車も弱含んだ状態を脱しており、全体として持ち直している。
- ・ 素材関連は、鉄鋼やプラスチック製品を中心に増加している。
- ・ 電気機械は、発電施設向け機器が概ね横ばいとなる中、電子部品・デバイスや自動車向け製品が増加しているほか、情報通信機械も持ち直しつつあることから、緩やかに持ち直している。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、半導体等製造装置が高水準で推移している中、外需向けを中心に工作機械やはん用機械類が好調なことから、増加している。

(2) 輸出： 増加している。

- ・ アジア向けを中心に増加している。この間、17/12月短観における、17年度の輸出（製造業）は、前回調査比上方修正となり、前年を上回る計画となっている。

(3) 設備投資： 高い水準で推移している。

- ・ 17/12 月短観における、17 年度の設備投資計画は、前回調査比上方修正となったことから、前年比減少幅が縮小しており、依然高水準を維持している。製造業・非製造業ともに、既存設備の維持・更新などがみられている中、製造業では需要好調を受けた増投資がみられており、前年を 1 割強上回る計画となっている。一方、非製造業では大幅に伸長した前年の反動から減少計画となっている。

(4) 雇用・家計所得環境： 労働需給が引き締まりを続けているほか、所得環境も着実に改善している。

- ・ 18/1 月の有効求人倍率（勤務地ベース）は 1.37 倍と、前月の水準（1.37 倍）に続き、統計が公表されている 05/2 月以降、最も高い水準となった。また、17/12 月の現金給与総額は前年比+6.6%となった。

(5) 個人消費： 持ち直している。

- ・ 百貨店売上高は、天候要因などから季節商材の動きが鈍く、衣料品が弱含んでいるものの、化粧品が好調なほか、身の回り品も堅調となっており、持ち直しの動きが続いている。
- ・ スーパー売上高は、緩やかに持ち直している。
- ・ 家電販売額は、高機能製品を中心に白物家電やテレビ、携帯電話などが堅調なほか、季節家電も天候要因などから、足もと増加しており、持ち直している。
- ・ 新車登録台数は、小型・普通乗用車が横ばい圏内の動きとなっているほか、各メーカーにおける新車投入効果から軽乗用車が増加しており、全体では緩やかな増加基調となっている。

《参考》

- ・ 県内観光・レジャー施設の利用状況や、ホテル・旅館の稼働状況をみると、総じてみれば好調となっている。

(6) 住宅投資： 弱めの動きとなっている。

- ・ 着工ベースで見ると、分譲マンション、貸家、分譲戸建て、持家のいずれも減少した。

(7) 公共投資： 基調としては増加している。

- ・ 請負額ベースで見ると、国や独立行政法人が増加した一方、市町村や地方公社などが減少した。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、引き続き増加している。個人向けは住宅ローンを中心に引き続き増加しているほか、法人向けも不動産業を中心に増加している（貸出金末残前年比：17/12月+1.5%→18/1月+1.7%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、引き続き緩やかに低下している（月末貸出約定平均金利：17/12月1.164%→18/1月1.163%）。

(2) 預金： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金をみると、個人預金および法人預金ともに前年を上回っており、引き続き増加している（実質預金末残前年比：17/12月+3.1%→18/1月+3.0%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。